

令和3年度提示平均価額（案）の概要<山林>

資料 7-1

1 提示平均価額（案）の特徴

岡谷市において、課税地成りにより低価格帯の山林が増加したことを主な要因として、平均価額が下落（前年度比：0.990倍）したことを除くと、昨年度と比較して、平均価額に大きな変動はありません（前年度比：0.993～1.003倍）
 これは地価が下落傾向にある中、評価額が売買実例価額を下回っているため、評価額を据え置いていることによります（全国的な取扱い）。

2 提示平均価額（案）順

順位	区分 市町村名	令和3年度 提示平均価額 （案） C（円/千㎡）	令和2年度 平均価額 F（円/千㎡）	変動割合 C/F（倍）
1	岡谷市	32,044	32,383	0.990 ↓
2	駒ヶ根市	29,481	29,480	1.000 →
3	南箕輪村	28,390	28,390	1.000 →
4	原村	27,958	27,967	1.000 →
5	飯島町	26,239	26,237	1.000 →

（主な理由）
 上位の団体には、価格の高い平地の山林が多く、また単価の低い山林は、国有林や保安林として非課税となっているため。

3 総評価見込額の変動割合順

順位	区分 市町村名	令和3年度 A（千円）	令和2年度 D（千円）	変動割合 A/D（倍）
1	岡谷市	485,519	467,355	1.039 ↑
2	坂城町	207,870	203,030	1.024 ↑
3	川上村	708,415	696,524	1.017 ↑
...				
75	松川村	107,320	107,890	0.995 ↓
76	平谷村	188,511	189,807	0.993 ↓
77	根羽村	521,004	527,217	0.988 ↓

（主な理由）
 【岡谷市】課税地成りによる増
 【坂城町・川上村】現況調査に基づく地目変更による増
 【松川村】非課税地（公用地）成りによる減
 【平谷村・根羽村】非課税地（保安林）成りによる減

4 総地積の変動割合順

順位	区分 市町村名	令和3年度 B（㎡）	令和2年度 E（㎡）	変動割合 B/E（倍）
1	岡谷市	15,151,755	14,432,035	1.050 ↑
2	坂城町	8,521,100	8,319,842	1.024 ↑
3	川上村	57,004,830	55,989,065	1.018 ↑
...				
75	松川村	9,718,035	9,784,687	0.993 ↓
76	平谷村	26,863,370	27,115,881	0.991 ↓
77	根羽村	32,467,222	32,856,159	0.988 ↓

（主な理由）
 【岡谷市・坂城町・川上村】上記3に同じ
 【松川村・平谷村・根羽村】上記3に同じ